

ちゅーピープール

広島県立広島南特別支援学校

小学部第1学年 清水 咲菜

た	れ	ヨ	ヨ	る		い	あ	ま	さ	り	し	と
し	て	ン	ン	と	だ	た	た	ま	ぎ	と	た	と
は	、	を	を	き	か	か	あ	を	み	か	の	と
、	こ	つ	か	は	ら	っ	ま	ど	た	ら	す	て
う	わ	か	っ	、	、	た	ん	ん	い	だ	べ	、
つ	か	て	し	き	2	で	ど	ど	に	か	る	は
ぶ	っ	す	た	い	か	す	ん	ん	は	ボ	と	や
せ	た	べ	。ク	ろ	い	。ク	う	う	ぬ	ン	き	く
に	で	る	ッ	い	め	ッ	っ	っ	ま	ン	に	な
な	す	と	ッ	ク	に	ッ	て	て	し	ン	、	り
っ	。わ	ゆ	ッ	ッ	す	ッ	い	い	た	と	お	ま
て			ッ	ッ	べ				。、	う	し	

からすみたいになりました。
てきのはしたら、ちよっ
はやくなりました。びっく
りしました。

あさからばんまで、なが
くおよいで、ひやけをした
ので、かみとかおがあかく
なりました。すべりだいを
いっほいすべれてたのしか
っただです。

指導者の言葉

本児は、国語科の「えにつきをかこう」で、経験して心に残ったことから書きたいことを選び、絵日記に書くことを学習しました。それを生かして、その日の出来事を正しい日本語で言語化できるように、夏休みの前から毎日、日記を書くよう指導し、夏休みに絵日記を書くようにしました。本作品は、その中から一つを選び、国語科の「はなしたいな ききたいな」の単元で、夏休みの思い出を話す際の手紙の原稿を作る過程で書いた作品です。

指導に当たっては、小学校学習指導要領の国語に示されている「第1学年及び2学年」の「2 内容」「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」を意識しました。普段の日記指導から、文章を「はじめ」「中」「おわり」に分け、「はじめ」の部分には、出来事、「中」には、伝えたいことを詳しく、「おわり」には、気持ちを書くように指導しました。また、聴覚障害がある児童は、書きたい内容があっても、助詞等に誤りが見られたり、書き言葉での表現がわからないこともあります。そのため、言語概念の形成に対する丁寧な指導が必要です。そこで、音声を伴った手話での会話を通して、体験したことを思い出しながら、正しい日本語の表現方法を伝え、学習の基盤となる語句などについて、的確な言語概念の形成が図れるように指導しました。その際に、児童が表現した擬音語や擬態語、比喩等の自由で豊かな表現を、そのまま文にしていきました。そのため、文章の後半は、事実ではなく、想像を広げて書いている部分もあります。

このような過程で生まれた作品は、事柄の順序に沿った文章構成になったとともに、児童の豊かな想像の世界を含む、とても子供らしく豊かな表現になったと考えます。